

# 道徳研修だより

世羅町立せらひがし小学校

平成 30 年 5 月 29 日

先週は、道徳科の評価の研修、2年生の研究授業ありがとうございました。評価について具体的なイメージをもてたでしょうか。研究授業の協議や指導講話での研修を日々の授業に生かしていきましょう。



## 1 「道徳科の評価」研修のまとめ

### ○全体討議より

- ・ 普段から学習状況の観察，記録が大切
- ・ ノートの記述のわけを聞く。
- ・ 6月末ぐらいに児童に自己評価をさせてみる。（道徳ノート活用）
- ・ 学習紹介では，教材名は使える。（主題名は，内容による。）
- ・ 学習課題や主発問を引用できる。
- ・ 文末表現として
  - 例 ～気持ちを強めていた。
  - ～考えることができた。
  - ～に気づいた。
  - ～深めていた。
  - （～する姿が見られた）
- ・ 1学期は1つの教材に特化
  - 2学期以降複数の学習を総括，学期や年間を通した成長ということも考えられる。

### ○評価例（皆さんの文章を少しかえています。）

- ・ 「ありがとう」の学習で，自分のために何かをしてくれている人にどんな言葉をかけるかについて考えたとき，学校の先生や地域の人だけでなく，「友達にも『ありがとう。』と言いたい。」と発言するなど，お世話になっている人への感謝の気持ちを深めることができました。
- ・ 挨拶はなぜするのかを考える学習では，挨拶にはいろいろな言葉があることに気づくとともに，「挨拶をすると嬉しい気持ちになるからする」という挨拶のよさにも気づくことができました。
- ・ 「本がかりさんががんばっているね」で係や当番の仕事をするよさ考えたとき，「係の仕事をするとなりの人が嬉しくなる。」と，みんなのために働くよさに気づくことができました。
- ・ 「ぼんたとかんた」でよいことと悪いことについて考える学習を通して，よいと思うことをするには，しっかり考えて自分の意見を言うことの大切だということに気づき，友達につられず頑張っていこうとする気持ちを持つことができました。

- ・「目覚まし時計」で規則正しい生活について考えたとき、自分で決めたことを守らなかったら自分だけでなく周りの人も嫌な気持ちになることにも気づくとともに、自分が決めたことを必ずすることの大切さに気づくことができました。
- ・「ヒキガエルとロバ」の学習を通して、人間以外のどんな生き物にも命があることに着目し、生き物の側に立って命の大切さを考えることができました。
- ・「きめつけないで」の学習で友達と同じように接するという事について考えた際、きめつけはじめにつながることに気づき、誰にでも同じように仲よく接していこうとする気持ちを強めていました。
- ・「命」で精いっぱい生きることについて学習したとき、生命はかけがえのないものであることを自覚し、「自分を高めることに挑戦し続け生きていきたい。」と精一杯生きることについての自分の考えを深めることができました。
- ・「ほんとうのことだけど」の学習を通して、5年生で学習した「自由とは限られた中で楽しむ、人を嫌な気持ちにさせない」ということに加え、「責任とは任されたことを正しく判断してやりきることだ」と知り、「自由と責任を両立させたい。」と責任を伴った自由について考えを深めることができました。

## 2 道徳科の授業研究について

### ★2年生「およげないりすさん」B信頼、友情

#### 〈グループ協議より〉

##### 比較

○成果 ●改善点

- 初めに島に行った時とりすと一緒に島に行った時の「にこにこ」について比較させる発問は深い学びにつながる。
- 比較したときに、理由、質、どのくらい（量）を問う。

##### 顔カード

- 顔カードの活用は有効。
- 顔カードでニコニコのいろんなパターンを用意して選ばせる。数で比較。

##### ペアトーク

- ペアトークの時、話型で段階を示す。
- 書いていないところでペアトークをさせる。

##### 役割演技

- 導入の問題提示と展開後段で問題解決のための役割演技（学習のつながり）
- 役割演技の場の設定（3，2，1，パン）
- 役割演技をやって、見て感想を言う。
- 問題解決のため他の場面も設定する。
- 役割演技の後、課題について考えさせ一般化する。

## 深い学び

○切り返し，問い返しをする。

●児童同士で発言をつなぐ。

そのために，話をよく聞くことが大切。（どこが同じ，どこが違う）

●児童の発言を広げる。「いいにこここ。」→「どうしていいの？」

### 〈授業評価表より〉 (%)

	評 価 項 目	4	3	2	1
		十分 できている	半分以上 できている	あまりで きていない	ほとんどで きていない
主体的な学びを促す効果的な「話し合い」の工夫					
①	教材，人，自分とのかかわりを大切にした指導の工夫	69	31	0	0
	考えの違いを表現したいと思えるような深める発問を工夫している。	23	62	15	0
	ペア・グループトークを充実させている。	23	69	8	0
	児童が考えを深められるような話し合い活動を工夫している。	92	8	0	0
	明確な視点を示し，児童が自分を見つめながらふり返られるように工夫している。	100	0	0	0
②	問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習など多様な方法を取り入れた指導の工夫	92	8	0	0
	児童が考えてみたい，深めたいと思える必然性のある課題設定になっている。	85	15	0	0
	道徳的行為に関する体験的な学習，疑似体験的な表現活動を工夫している。	100	0	0	0
③	深い学びにするための発問等の工夫	80	20	0	0
	物事を多面的・多角的に考えられるような発問をしている。	75	25	0	0
	児童生徒の発言の背景に迫ったり，考えを深めたりするような手立て（切り返し・揺さ振りなど）をしながら授業を進めている。	54	46	0	0
	適切な中心発問である。	70	30	0	0
	中心発問にかかわる時間を十分に確保している。	92	8	0	0
	ねらいと中心発問（場面）が一本になっている。	92	8	0	0
	児童生徒の発言を価値に基づいて分類し，黒板に明示している。	92	8	0	0

## 〈指導講話より〉

- ・話し合いの質の向上のために、問いの質を上げる。そのために実態把握の質を上げる。  
(職員集団で質を上げていく)
- ・実態把握のためのアンケートでは、なぜそのような回答をしたのかなど結果の分析をする。そして、どういう実態があるから、どうするかを考える。
- ・児童実態と指導をつなげる。
- ・実態把握からの導入でみんなが共通認識をする。  
→その時の児童の反応で、どう踏み込んでいくかを考える。
- ・児童の思いを表現させる。  
→展開後段での役割演技は全員がやってみる。
- ・かかわるための話型の活用  
→ステップアップのために④段階までできた児童を価値づけ、みんなの前でやらせる。  
(他者評価などで自分の成長を感じる機会となる。)
- ・評価について  
いつ、どのタイミングで、何を書かせるか  
→いろんな考えが出そうなところで、前と後で比べて  
低学年では、「りすさんの顔をしてみて。」と全員に反応させて表情を見る。
- ・顔カードは、言葉では言えない(言語化できない)ところを助けるのに有効。  
→黒板に貼っておいて選ばせてもよい。評価にも活用できる。
- ・ペアトーク 2年生では話型に沿ってしっかりやる。  
→ノートなしでも話をする。(自分の言葉で話すよさ)
- ・展開後段での役割演技は学習した価値を一般化できる。  
→初めの役割演技も児童にやらせてみるチャレンジ。
- ・仲よくすることの大切さはわかっているので  
→助け合うところに焦点を当てていく。  
→新たな解決策「仲良くできないときどうするか」とさらに求めていく。  
実態から考えさせるところはどこなのかを検討する。
- ・日ごろから継続して取り組むことでの積み上げが大切

## 〈今後の取り組み〉

- ・児童の実態把握をしっかりする。(アンケートの問いの内容の吟味、結果分析)
- ・児童実態をもとに、指導を考える。「どこまで考えさせるか」
- ・深める発問「問い返し」、「比較」
- ・話し合いの工夫「児童同士で発言をつなぐ」
- ・顔カードの活用(特に低学年)